

地質情報

地質調査所
地質情報センター

GEOLIS フロッピーディスク公開版応募状況

本誌6月号(63頁)・8月号(17頁)で、日本地質文献データベース GEOLIS フロッピーディスク公開版の配布についてお知らせしたところ、これまでに多数の要望が寄せられています。

第1回目の募集(1989年10-12月)では、国立大学の地学教室を中心に利用案内状を送ったのですが、2回目の今回は本誌上でのみ募集し、個別の案内状は送っていません。しかし、9月5日までの集計で受付件数はすでに昨年の総数82件に匹敵する76件に達し、申し込みは現在も続いております。受付は9月末日までですが、これまでに寄せられた利用希望者の数と所属の多様さは、本誌が広い範囲の方々に読まれているという事を物語っているのでしょうか。

今回の募集結果を第1回の結果と共に利用希望者の所属別に第1表に示しました。数字は9月末日の締切までの集計結果を校正の段階で修正・記入したものです。利用申込み書は個人あるいは組織名で送られて来ていますが、その機関別に見ますと以下の特徴が指摘されます。大学関係では、地方の大学ほど熱心に応募している傾向があり、大学以外の学校関係者は殆どが高等学校の先生方です。地方自治体関係は、県の商工労働部や公害・環境問題に携わっている協会や試験所それに教育センターなどです。博物館からの申込みは、この記事を書いている9月5日現在2件ですが、今後増加するものと予想されます。特筆すべき事は、地質コンサルタントや建設関係の民間企業からの応募でした。その反応は極めて早くかつ熱心で、より早く多くの情報を得ることへの迫力を感じさせられました。「その他」に入れたうちの1件は韓国からのもので、この方は地質調査所で研修を受けた事があるそうです。外国からの申し込みは今回が初めてです。

GEOLISは、文献データベース委員会(名簿は「日本地

質文献目録」に掲載)の数人の研究者が、地質調査所の収集する全ての文献に目を通して採録する論文・要旨・著書・各種報告書等にキーワードを付け、資料情報課の職員がデータベース入力を行って作成されています。これまでのフロッピーディスク公開は試行として実施されたものですが、今後も同様の努力を続け、GEOLISを充実させていきたいと考えております。GEOLISに対するご意見を下記までお寄せ下さるようお願い致します。また、今後の案内も本誌を通じて行いますので、引き続き「地質ニュース」の記事にご注目下さるようお願い致します。

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質情報センター資料情報課 (Tel. 0298-54-3604)

第1表 GEOLIS フロッピーディスク公開版配布先

所	属	第1回	第2回
大学	関係	58	30
高校	・高専など学校関係	1	6
民間	企業	17	75
地方自治体	(含県外郭団体)	1	7
博物館	・美術館	0	4
官庁	・国立研究機関	3	6
特殊法人	(公社・公団・事業団)	1	5
その他		1	8
合	計	82	141

日本地質文献目録 1989 発行

3500円(税・送料・手数料別)

日本地質文献目録(Bibliography for Geology of Japan)の1989年版が出来上りました。これは1986年からはじめた日本地質文献データベース GEOLIS の冊子体目録で、磁気テープから出力して印刷したものとしては4冊目になります。GEOLISにはこれまで2万8千件余りの文献が入力され、フロッピーディスク版の試行頒布が行われております(上の記事参照)、冊子体目録の出版により、このデータベースがさらに広く利用されるものと期待されます。目録は主に(1)アルファベット順に配列した文献一欄、(2)著者索引、および(3)キーワード索引からなり、1989年版の採録文献数は7,305件、総頁は815で、当所発行の地質図目録も添付されております。

日本地質文献目録の強みは、何と言っても、目録に採録された文献はすべて当所資料室に所蔵されているということです。資料室における資料収集の基本方針の一つである系統的網羅収集の方針は、これら文献目録の信頼性を高めることであり、日本における地質情報センターとして、内外の要望に応えることであると考えております。(資料情報課)